広島大学大学院教育学研究科紀要　第二部　第57号　2008　69－75

中国における公民的資質を育成する初等教科「品徳と社会」の授業開発

― 第５学年単元「ルールをつくってみよう」の実践とその分析 ―

蔡　　秋　英

（2008年10月２日受理）

Development of the Model Class of the Subject "Pinde and Shehui (Rule and Society)" Focused on Citizenship at Elementary Level in China: An Analysis of the Lesson "Let's make Rules!" in 5th Grade.

Qiuying Cai

Abstract: The purpose of this paper is demonstrating the efficacy of the lesson which I developed about making rules for fostering citizenship to students in China through the practice and analysis. In this lesson, I let students make some solution (rules) through the problem of having pets in apartments. The result of the analysis, it was revealed three things below. 1) Students were interested in making rules. 2) Students understood the importance about keeping rules. 3) Students could decide the way of solute the problems independently.

Key words：subject of elementary level, practice of lesson, rules, citizenship
キーワード：初等教科，授業実践，ルール，公民的資質

Ⅰ．はじめに

1990年代から，中国では公民的資質を育成することを重視している。ここでいう公民的資質とは，現代中国の公民として備えるべき資質であり,「公民知識」「公民能力」「公民意識」などが含まれている。その中で,「公民意識」は中核となるもので，民主的な国家や社会を認識するとともに，それを維持し，よりよく改善していくために必要な態度や価値観を指す。具体的には，公民の政治（法律）意識，道徳意識，国際意識，環境意識などが挙げられている。では，これらの公民意識をどのような内容でどのように育成しようとしているのであろうか。

筆者は，今まで中国における社会系教科の課程標準と教科書を中心に，公民的資質育成の視点からその内容編成の分析を行ってきた[1)]。しかし，上記のような公民的資質をどのように育成していけばよいのかについての授業開発はまだ行っていない。

また，中国の場合，公民的資質育成の教育は今から重視されつつあるため，それに関する授業を開発し，その授業が妥当であるかどうかを，授業実践を通して検証することが必要であると考えられる。もし，開発した授業が実践によってよい評価が得られたならば，現在中国で重視されている公民的資質育成の教育のために有効な授業方法を提供したといえよう。

以上のような問題意識に基づいて，本稿では，小学校を中心として,「ルールづくり」を教材とした授業開発を行い，それを実践して，子どもたちの学習結果の変容を考察することを通して，中国の公民的資質育成の教育としての単元の有効性を明らかにする。

Ⅱ．授業計画

１．教科及び単元名

教　科：小学校の「品徳と社会」科
単元名：「ルールをつくってみよう」

２．単元設定の趣旨

子どもたちがある問題の解決策（ルール）を体験的に作成する過程においては，それぞれ合理的な意見を持ち，相互の討論を経た合意形成に基づいて問題を解決することが必要となる。こうした体験的な作業過程は合意形成や批判的な能力の育成にもつながると考えられる。

また，子どもたちの身近な問題を設定することにより，作成したルールもまた身近なものとして意識付けることが可能となる。問題状況の変化に応じてルールを作り変えるといった主体的にルールを作成し，利用するという意識を育む教育にもつながると考えられる。

一方，「ルール」についての内容は，「品徳と社会課程標準」では，大項目（3)「私と学校」の小項目（7)に位置づけられており，「社会生活の中にあるルールの意義を感じさせて，ルール意識を形成させ，活動におけるルールや学校のルールを守るように育成する」こととされている。そのため，教授活動では「遊びや学校，クラスでの活動を通して，子どもたちにルールの必要性を感じさせたり，場合によってルールをつくってみることを体験させたりすることが望ましい」と示されている[2)]。このような記述から「ルール」についての学習を重視していることがうかがえる。

そこで，子どもたちの現実生活の中でよく生じる問題を対象にし，子どもたちの生活から身近な問題として取り扱い，その解決策（ルール）を考えさせるとともに，良識ある公民として必要な能力と態度を育てることを目指す本単元を取り上げる。

学習内容としての現実的な問題を，解決策（ルール）づくりをテーマにして，子ども自身の問題として主体的に考えさせる。その際，学習指導の方法として，グループに分けて，討論させ，発表させる。

３．単元の目標

単元の目標として以下の４点でまとめる。

①ルールに感心を持たせ，社会生活におけるルールの意義について考える態度を育成する。
②ルールづくりを通して，それを守ることの大切さを，実感を持って認識させる。
③ルールをどのようにしてつくるかについて，主体的に学習させる。
④討論学習によって，主体的な学習能力を身につけさせる。

４．単元の構成と時間配当

単元は，以下のように２時間から構成されている。

①「適切なルールとなる要件」
（１時間)……講義
②「ルールをつくってみよう」
（１時間)……討論

１時間目は，子どもにルールの意義，適切なルールとなる要件を理解させるための授業となっており，主に講義の形式で行う。

２時間目は，現実的な問題を子ども自身の問題として取り上げ，それを解決するためにルールをどのようにしてつくるかについて主体的に学習させる授業となっており，子どもたちの討論学習を中心として行う。

５．授業の流れ

１時間目の授業では，「適切なルールとなる要件」というテーマに基づいて，日常生活の中によく見られるルールを感じ，この中でどのようなものが受け入れられるのかを考えさせる。具体的には，子どもたちが日常生活の中で出会うトラブルを解決するルールを設定し，その適否を考えることを通して，ルールの意義や機能，適切なルールとなる要件を考えさせる授業を行う。

授業の流れは以下のようにする。

①ルールはなぜ作られているのかを考える。
②ルールの具体的な例を取り上げ，受け入れられるかどうかを検討する。
③それぞれのルールの問題点を考える。
④ルールの問題点をどのように改善すればいいのかを討論する。
⑤適切なルールとなる要件を考える。

２時間目の授業では，「ルールをつくってみよう」というテーマに基づいて，あるアパートの問題を設定し，解決するためのルールを考えさせる。具体的には，アパートで発生した「ペットを飼育するかどうか」という問題を設定し，その問題を解決するルールを考える授業を行う。

授業の流れは以下のようにする。

①あるアパートで「ペットを飼育するかどうか」について紛争が起きている状況を確認させる。
②異なる状況にある５つの住民の立場に立って，クラスを５つのグループに分けて，グループごとに解決するためのルールを考え，討論を通して，評価させる。

③各グループが考えたルールをクラス全体で発表させ，検討させた後，討論を通して，最適の解決策を決定する。
④クラス全体で決定したルールが適切であるかどうかを，１時間目に学んだ適切なルールとなる要件に基づき，各自が受け入れられるかどうかを評価する。

Ⅲ．授業の実際

以上の授業計画は，2008年６月に中国吉林省延吉市のＫ小学校５年生の１クラス31人を対象として，筆者が実践を行った。以下では，全２時間[3]の授業の実際を記述しながら，分析していく。

１．１時間目―「適切なルールとなる要件」の実践

１時間目の授業では，「適切なルールとなる要件」というテーマで行った。

授業は，まず，子どもがルールについてどれぐらい知っているのかを確認するために，「自分の身の回りにはどのようなルールがあるのか」を，家庭，学校，地域社会のなかで考えさせ，発表させることから始まった。「このようなルールを，人々はよく守っていますか」の問いに，「守っていない」と答えた子どもが半数以上であった。「それはなぜですか」という問いに，「ルールを守ると大変不便であるから，あるルールは自分にとって不利であると思うから，ルールは守りにくいから，自分に有利であれば，守らなくてもいいから」などの答えが出た。これらの答えから，子どもたちはルール違反に対して，様々な見解を持っているが，ルールに対して正しい考え方を持っているといえよう。

次に，子どもたちに，「道路の中で遊ぶ子たち」「列を立たずに待っている飲み水の場所」「交通事故の場面」という３枚の写真を見せて，「ルールを守らないと，どのような結果をもたらすのか」という問いをかけ，子どものルール意識をさらに把握することにした。子どもたちは，「道路の中で遊ぶと交通秩序を維持しにくくなる」「列を立たないと，順番に水が飲めない」「交通ルールを守らないと交通事故が起きる」「命を失う」など，積極的に自分の考えを発表した。そこから，ルールを守ることの大切さを感じるようになった。また，生活にとって大切なこれらのルールは，「自分だけ考えなくて，他の人たちが安全な生活を送るようにするために」「社会の秩序を維持していくために」「みんなが公平であるために」作られていることを子どもたちの答えから出るように工夫した。このような展開を通して，子どもたちはルールの機能（意義）を理解することができた。

本授業の中核である「適切なルールとなる要件」を子どもたちから導き出すために，以下のような３つのルールを例示し，これらのルールを受け入れられるかどうかを判断させた。

ルールＡ：静かに授業を行うために，「授業開始のベルが鳴ったら50分の授業のうち40分間目を閉じる」というルールを先生が作った。

ルールＢ：よいクラスをつくるために，クラス全員の意見を聴かず，「クラス内の雰囲気を乱した生徒については，クラス長からどんな制裁でも受けなければならない」というルールを作った。

ルールＣ：男子生徒がいつも掃除をさぼっていて，男子生徒と女子生徒がけんかをしているので，みんなで掃除をきちんとするために，「掃除は男子生徒のみとする」というルールを作った。

上記のルールについて，子どもたちはすべてが不適切であると判断をした。また，それらが不適切である理由として，ルールＡは，目的に対して，内容が限度を超えているから，ルールＢは，みんなの意見を聞かずに，クラス長一人だけの制裁では不公平であるから，ルールＣは，立場を換えて考えると，不平等であるから，というのが，子どもたちから挙げられてきた。ここから，どのようなルールは受け入れられるし，どのようなルールは受け入れられないのかということを正しく判断することができているとうかがえる。

このような判断の基に，子どもたちは，「適切なルールとなる要件」を以下のようにまとめることができた。

①正しい目的のために作られていること
②正しい目的に対して，内容が適正であること
③相手の立場を換えても適切である（平等である）こと
④ルールをつくる過程にみんなが参加していること

授業の最後には，今までの考えによりまとめた「適切なルールとなる要件」のもと，上記の３つのルールを以下のように適切なルールとして，改善を試みさせ，討論させた。

ルールＡ：授業開始のベルと同時に１分間目を閉じて，静かになってから授業を始める。
ルールＢ：みんなの意見を聴いて，みんなで相談して制裁を決める。
ルールＣ：男子生徒と女子生徒が分担して掃除をする。

以上のように，１時間目の授業を通して，子どもたちはルールを身近なものとして感じることができたと判断できよう。そして，そのことを通して，ルールの

意義を深め，ルールを守ることの大切さを，実感を持って認識することができたといえよう。

２．２時間目－「ルールをつくってみよう」の実践

１時間目の授業では，「ルールをつくってみよう」というテーマで行った。

まず，子どもたちにルールづくりを体験させるために，以下のような問題を設定した。

アパートでは，ペット禁止のルールが決められている所もあるが，ペットを飼っている李さんのアパートではそんなルールがありません。同じくペットを飼っている住民が何軒かある。しかし，アパートに住む人たちの中には，ペットのほえる声がうるさいし，糞の悪臭もひどい。それで，ペットの飼育は迷惑なので，何とかして欲しい要望が出されている。どのように，解決すればよいのでしょうか？

なお，このアパートの構造図は下の図のとおりである。

アパートの構造図

4階	住民	ペットを飼っている李さん(A)	安さん(E)
3階	住民	金さん(B)	ペットの糞を片付けない権さん
2階	いつも朝ほえるペットがいる趙さん(C)	赤ちゃんのいる朴さん(D)	住民
1階	住民	住民	住民

子どもたちに，構造図の李さん(A)，金さん(B)，趙さん(C)，朴さん(D)，安さん(E)の立場に立って，５つのグループに分けて，討論を行い，アパート問題を解決するためのルールを考えるようにした。

そのため，まず，各グループは，自分たちの抱えている問題状況，その問題に対する希望，このように希望する理由について，話し合い，事前に配ったワークシートに記入した。

各グループが記入した内容は以下のとおりである。

グループ	記入した内容
A	状況：ペットを飼っている 希望：ペットを続けて飼ってほしい 理由：ペットがかわいいから
B	状況：糞のにおいがする 希望：糞をよく片付けてほしい 理由：悪臭がする
C	状況：ペットは朝よくほえている 希望：ペットを続けて飼ってほしい 理由：ペットが大好きなので，何とかしてペットがほえないようにする
D	状況：趙さんの家のペットがうるさい 希望：ペットがほえないようにしてほしい 理由：ペットがほえると，赤ちゃんがよく驚く
E	状況：李さんのペットが泣く声が聞こえるし，糞のにおいがする 希望：李さんはペットが泣かないようにし，権さんは糞をよく片付けてほしい 理由：悪臭が嫌いし，泣き声で勉強ができない

次に，グループ内の討論を通して，最適なルールを決定するようにした。その際，筆者は，①ペットの泣き声は，住民の受忍限度を超えるのかどうか，②糞の悪臭は，住民の受忍限度を超えるのかどうか，③もし飼育を禁止するならば，すでに飼っているペットはどうするのか，④もし飼育を認めるならば，どのような条件が必要なのか，などのような論点を提示して，しっかり考えながら討論するように指示した。

最後に，決定したルールを各グループの代表がクラス全体に発表するようにした。各グループが決定したルールは以下のとおりである。

グループＡ：
　Ｂ，Ｅの家に迷惑をかけないように注意しながら，ペットを飼育する
グループＢ：
　環境に悪いから，糞をよく片付ければ，ペットの飼育を認める
グループＣ：
　隣の家に迷惑をかけないように，専門家を呼んで，ペットを訓練させる
グループＤ：
　うるさいので，ペットの飼育を禁止する
グループＥ：
　専門家を呼んで，ペットをほえないようによく訓練させたら，ペットの飼育を認める

そして，クラス全体で各グループが提案したルールの中で，どのグループのルールがいちばん適切であるのかを話し合うという活動を進行した。その際，また上記の４つの場合を考えながら討論するよう子どもた

ちにアドバイスをした。

クラス全員は，各グループのルールに対して，様々な質疑，例えば，泣き声がうるさかったらどうするのか，糞の処理をちゃんとするのか，悪臭の除去にかかわる費用は誰が負担するのか，などを出しながら，各グループのルールを改善することに熱意を出していた。

真剣な討論の結果，クラス全体は，このアパートに以下のようなルールを出した。

このアパートでペットの飼育を認める。ただし，以下のようなことに注意すべきである。 ①悪臭の除去による費用などは飼い主が負担する。 ②専門家を呼んで，ペットがほえないように訓練させる。 ③できるだけ，朝はペットを散歩させる。 ④飼い主はペットのしつけをしっかりし，いつもやさしい環境づくりに努める。

上記のルールについて，各自は１時間目に学んだ適切なルールとなる要件に基づき，アパート住民の全員が受け入れられるかどうかを，ワークシートによって評価を行った。

ワークシートの記入を考察すると，クラス全員は，①誰が読んでも同じように読み取ることができる，②ルールを決定している過程でみんなが参加している，③自分の置かれている立場を替えても，適切である，④問題を解決するという目的を実現するには適切である，という評価視点に対して，「そうである」と判断した。そして，適切であると判断した「このルールをあなたは守ると思いますか」という問いに対して，全員は「守る」と答えた。また，「新しい入居者が入ってくるなどで，もしこのルールが適用できないような新たな問題が発生したらどうしますか」という問いに対して，28人の子どもが「問題状況にあう新しいルールをみんなで平等につくる」と答えた。

以上，２時間目の授業を通して，子どもたちは自ら参加し作成する討論活動を通して，積極的にルールを守ろうという意識が高まったと評価できよう。また，授業での子どもたちの様子をみると，各自はルールをどのようにしてつくるのかについて，真剣に取り組んでいた。このことから，子どもたちは，ルールに関心を持って，積極的に考えることに努力したといえよう。このような様子は，子どもたちが討論学習によって，主体的な学習能力を身につけていくのに役に立ったと考えられる。

Ⅳ．授業の結果及び考察

以下では，実践授業で使ったワークシートの回答と授業前後のアンケート調査に基づいて，その結果を考察しながら開発した授業の有効性をさらに検証する。

１．授業前後のアンケート調査に見られる子どもの変容

授業前後のアンケート調査は，まったく同じ質問をした。その内容と回答の結果を示したものが表１と表２である。

まず，表１の「問題１：あなたは身の回りの人々と意見や考え方が違った場合，どのようにしますか」という問いの答えから授業前後をみると，授業後は「お互いに納得できるまで相談してから行動する」を選択した子どもが27人から31人であった。このことから子ども100％がトラブルを解決する際の仕方について正しく認識していたといえよう。

問題２は「私たちが住んでいる社会の中にはなぜ無数のルールがあるのでしょうか」というものであった。この問いは，選択肢の中で２つだけを選択するようにした。ルールが存在する理由を，「社会秩序を維持するために」「身の回りの人たちすべてが平等で幸せな生活を送ることができるために」を選択した子どもが圧倒的に多く，さらに授業後は，100％の子どもが後者を選択した。前者も，25人から29人になった。それ以外，「わたしの意見や考え方を実現するために」「身の回りの人々の意見や考え方をまとめるために」を選択した子どもが２人から１人になった。本授業を通して，１人を除くすべての子どもがルールの意義についてより深くて正解な認識を形成したと思われる。そして，「自分より弱い人を保護するために」を選択した子どもは，授業前の５人であったが，授業後は一人もいなかった。これは，ルールに対する認識が授業を通して，新しく変わってきたことを表している。

問題３は，「ルールに関する以下の文章の中で正しいだと思うのをすべて選んでください」というもので，答えは，複数選択が可能であった。表１から見ると，授業前後ともに，「ルールは誰に対しても公平でなければならない」「ルールは人々すべてが守らなければならない」を選択した子どもが特に多いことが読み取れる。しかも，授業後は，人数が増えていたし，さらに後者についてはすべての子どもが理解したことから，ルールを守ることの大切さを全員が認識したと判明できる。それ以外，「ルールはある問題を解決するために作られている」「新たな問題が発生した時，元のルールは状況に応じて変更したり直したりしなければならない」に関する理解も増え，特に後者については，授業前の４人から授業後の20人までに増えた。約半分以上の子どもが「ルールは状況によって変化する」ということを新しく認識した。それに対して，授業前

に，「ルールは私が守るものなので，私の考えによって作っても結構である」「私たちはまだ幼いので，ルールは大人によって作られる」「私にとって，利益のあるルールはすべて適切なルールである」といった認識を持っていた子どもが，授業後はいなくなった。このような結果から見れば，子どもたちは，ルールに対してどのような態度を持つのか，ルールはどのようにしてつくるのか，なぜルールが必要なのかなどがわかり，本実践授業の目標の１つは達成したといえよう。

次に，表２をみると，最後の問題４は，「あなたは，社会のルールはどのように作られたと思いますか」という問いであった。これは自由記述であり，回答は複数回答であった。子どもの自由記述からみると，授業前は，「他人の意見を聞いてみて，国の法律によって作られた」「優れた国家をつくっていく中で作られた」「国家の首相が国を正しく運営していくために作られた」「人々がいい考えをし，悪い行動を少なくするために作られた」「長い時間をかけて，人々の意見によって作られた」「弁護士が集まって討論した後，結論を得て作られた」「ある問題を弁護士，すなわち成人たちが経験した後，それを解決したり，防止したりするために作られた」のように，ルールは国家や首相，弁護士，成人などによって作られたと認識した子どもがいたが，授業後は，「すべての人々がお互いに同意してから作られた」「すべての人々が参加して作られた」といった認識にとって代わった。また，「身の回りの人々がすべて平等で幸福な生活を送ることができるために作られた」と認識した子どもが増えていた。それ以外にも，「ある問題を正しく解決するために他人と自分の考えや意見をまとめて，みんなが公平で平等であるように作られた」と答えた子どもがより多かった。以上の結果から，本実践授業を通して，子どもたちはルールの必要性を正しく認識したし，ルールに対する正しい認識と態度を育成する目標が達成したことが明らかになった。

２．授業後の感想に見られる授業の結果

全２時間にかけての授業を通して，最後に，本授業に対する感想を書かせた。それをまとめたのが次頁の表３のとおりである。

表３のように，子どもが「授業で感じられ，得られたこと」をみると，授業で学んだ「適切なルールとなる要件」について理解できたし，ルールを守ることの大切さを実感したといえよう。それ以外も，問題を自ら解決することができるようになったことによって，喜びを感じ，さらにこのような学びを深めていきたいというような態度がもてるようになったといえよう。

表１　授業前後に見られる子どもの変容（1）

問題			授業前	授業後
問題1	選択肢	あなたは身の回りの人々と意見や考え方が違った場合、どのようにしますか？（1つだけ選んでください）		
		①わたしの考え方にそって行動する。	2	0
		②相手の考え方にそって行動する。	2	0
		③お互いに納得できるまで相談してから行動する。	27	31
問題2	選択肢	私たちが住んでいる社会の中にはなぜ無数のルールがあるのでしょうか？（2つだけ選んでください）		
		①社会秩序を維持するために	25	29
		②自分より弱い人を保護するために	5	0
		③身の回りの人たちすべてが平等で幸せな生活を送ることができるために	28	31
		④わたしの意見や考え方を実現するために	2	1
		⑤身の回りの人々の意見や考え方をまとめるために	2	1
問題3	選択肢	ルールに関する以下の文章の中で正しいだと思うのをすべて選んでください。（複数回答可）		
		①ルールは私が守るものなので、私の考えによって作っても結構である。	1	0
		②ルールは誰に対しても公平でなければならない。	24	28
		③ルールはある問題を解決するために作られている。	14	19
		④ルールは人々すべてが守らなければならない。	20	31
		⑤私たちはまだ幼いので、ルールは大人によって作られる。	4	0
		⑥新たな問題が発生した時、元のルールは状況に応じて変更したり直したりしなければならない。	4	20
		⑦私にとって、利益のあるルールはすべて適切なルールである。	3	0
		⑧私にとって、不利益のあるルールは私の考えにそって直すことができる。	0	0

注：以上は選択肢による回答である。表の中の数字は人数である。
（授業前後のアンケート調査より筆者作成）

表２　授業前後に見られる子どもの変容（2）

問題4．あなたは、社会のルールはどのように作られたと思いますか？（自分の考えを自由に書きましょう）	
授業前の回答	・不規則的な状況の中で作られた（1） ・社会秩序を維持するために作られた（2） ・他人の意見を聞いてみて、国の法律によって作られた（5） ・身の回りの出来事を公平で正しく解決するために作られた（4） ・身の回りの人たちが平等で幸福な生活を送るようにするために作られた（6） ・みんなの異なる意見や考え方をまとめて作られた（3） ・優れた国家をつくっていく中で作られた（1） ・国家の首相が国を正しく運営していくために作られた（2） ・人々がいい考えをし、悪い行動を少なくするために作られた（1） ・長い時間をかけて、人々の意見によって作られた（2） ・弁護士が集まって討論した後、結論を得て作られた（1） ・ある問題を弁護士、すなわち成人たちが経験した後、それを解決したり、防止したりするために作られた（3）
授業後の回答	・安全と社会秩序を維持するために作られた（5） ・ずべての人々がお互いに同意してから作られた（6） ・すべての人々が参加して作られた（2） ・身の回りの人々がすべて平等で幸福な生活を送ることができるために作られた（3） ・ある問題を正しく解決するために他人と自分の考えや意見をまとめて、みんなが公平で平等であるように作られた（15）

注：（ ）の数は人数である。（自由記述による回答により筆者作成）

表３　子どもの授業後の感想

＜授業で感じられたし、得られたこと＞
・ルールはすべての人が同意しなければない ・ルールはすべての人に対して平等である ・ルールはすべての人が参加することによって公平になる ・ルールはすべての人に対して有利であること ・すべての正しいルールはよく守らなければならない ・ルールは永遠に変化しないわけでない ・問題を解決することができて、とてもうれしかった ・このような授業をまたやりたい
＜授業で難しかったこと＞
・新しいルールをつくることが予想以上難しかった ・自分の意見を他人のそれと一致させるのが難しかった ・グループ内での討論が難しかった ・意見が一致されにくかったため、すばやく結論を出すことが難しかった ・お互いの立場を換えて考えることが難しかった ・ルールづくりの目的が理解しにくかった ・授業の流れが速かったので、理解しにくかった

（授業後の感想により筆者作成）

以上，実践授業で使ったワークシートの回答と授業前後のアンケート調査の考察から見ると，授業の目的はほぼ達成したといえよう。

しかし，「授業で難しかったこと」をみると，「新しいルールをつくることが予想以上難しかった」「自分の意見を他人のそれと一致させるのが難しかった」「お互いの立場を換えて考えることが難しかった」などのような記述からルールづくりの難しさやルールをつくる過程での難しさなどを感じたと思われる。これらは，初めてルールづくりを体験してみる子どもたちにとって，当然なことであるだろう。それ以外にも，「グループ内での討論が難しかった」などの記述があることから，主体的に学習することが子どもたちの中にまだ根付いていないと推測される。そのため，「討論学習によって，主体的な学習能力を身につけさせる」といったような目的な達成しにくかったと推測できよう。これらは，今後の課題として残したい。

Ⅴ．おわりに

本授業の特徴は，身近に感じられる問題状況を設定して，子どもたちにこの問題を解決するための解決策（ルール）づくりを体験的に行わせる点にある。また，ルールをつくることを通して，ルールに関する知識だけではなく，討論の仕方やものの考え方を身につけさせる授業になっている点にある。

しかし，今回の実践授業は，小学校での授業経験がまったくなかった筆者が行った。また，授業現場で学習対象としての子どもたちと初めて出会ったため，お互いの了解もまったくなかった。そのため，学習者としては，今回の授業は突発的な授業であったといえよう。加えて，子どもたちは試験が迫っていたため，ゆっくり考えながら充分に討論を進めていけるような授業時間をしっかりとることができなかった。

それにもかかわらず，上記のような結果を得たことは，今回の授業が子どもたちのルール（法）意識を育成することには有効であったと結論付けることができよう。

今後の課題として，小学校だけではなく，中学校から高等学校までの生徒のレディネスを把握した上で，公民的資質育成に関する授業開発を行い，それを実践し，検証することである。

【注】

1）例えば，蔡秋英「中国における公民教育としての『思想政治』科の内容編成－高級中学校実験教科書の分析を通して－」日本社会科教育学会，『日本社会科教育学会全国大会発表論文集』第３号，2007年，pp.102-103，蔡秋英「中国における初等教科『品徳と社会』の内容構成原理－『公民意識』の育成を中心に－」広島大学大学院教育学研究科，『広島大学大学院教育学研究科紀要　第二部』第56号，2007年，pp.75-82，蔡秋英「中国における公民教育の内容編成－人民教育出版社版教科書『歴史と社会』の分析－」中国四国教育学会，『教育学研究紀要（CD-ROM版）』第53巻，2007年，pp.270-275，などである。

2）中華人民共和国教育部制訂『品徳と社会課程標準（実験稿）』北京師範大学出版社，2002年，p.10。

3）１時間の授業時数は40分である。本実践授業は，子どもたちの学期末試験が迫っていたため，休憩を取らず，２時間（80分）連続で行った。

（主任指導教員　小原友行）